福井県社会福祉協議会

平成元年4月13日　第三種郵便物認可
平成24年12月1日発行

ふれあいネットワーク
ふくい社会福祉
12
No.387

つないでキラリ☆
まち・ひと・えがお。

温故知新 ～一途に社協道～

地元のすばらしさ知ろう

勝山市環境保全推進コーディネーター
前園　泰徳 さん（勝山市）

2011年4月より勝山市において活動を開始しました。それまでは亜熱帯の島、奄美で8年間生活していました。奄美では、日本唯一の環境教育専門の教員として自然を保全し、未来の子どもたちに伝えていくプロジェクトの代表を務めていました。

福井県、そして、勝山市はすばらしいところです。しかし、地元の人がそのことを認識していないことに、はがゆい思いをすることが度々あります。自分の住んでいるまちの良さに気づかず、多くの若者が都会の生活に憧れて出て行く現状の背景には、「ないもの教育」ばかりが行われ、地域の魅力を伝える教育が少なかったのではないかと思っています。

勝山市には多様な自然が残っています。しかし、人々の無関心により、それが徐々に失われつつあります。勝山市の自然が持つ魅力を見出し、さらに高めていくためには、子どもから大人までが、地域を客観的に見つめるとともに、自然の恩恵を見直したうえで、お互いに認識を共有する必要があります。

その実践として、全国で減少しつつある赤とんぼの調査、絶滅危惧種の水草「バイカモ」の保全、地域らしさを守るための外来種駆除などを行ってきました。これらの活動では、子どもたちが地域の問題点や魅力を見つけ、科学的かつ論理的に大人に伝えることで、地域の常識を変えています。例えば、オオキンケイギクやセイタカアワダチソウといった外来種の駆除については、小学生が様々な場面で発信を繰り返すことにより、地域の大人だけでなく、とうとう国まで動かしました。

勝山市では、日常的に環境教育を行うことで、持続可能な社会づくりに、子どもから大人までが取り組んでいます。それにより、地域に誇りを持てる人が増えてきました。

これからは、「こんな田舎には、良いところなんてない」なんて思わず、自分の知らなかった地域のすばらしさに気づき、その良さを周囲に発信していくことが必要だと思います。地域を自慢できる人が増えれば、人材流出県という汚名を返上することも可能でしょうし、若い人ももっと地元に残って地元を良くすることに貢献してくれると期待しています。

福井の「当たり前」の暮らしは、他県から見れば「素晴らしいことだらけ」です。是非その自覚を持ってください。

表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。

この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

“気づき！”こそ“学び！”

～「ほやほや出前研修」モデル事業が終了しました～

事業所等に出かけて新任職員研修を実施する「ほやほや出前研修」が、11 月ですべて終了しました。初めての試みは不安もありましたが、事業所等のご協力と受講者の熱心な姿勢に助けられ、一定の成果をあげることができたと思います。

評価では厳しいご意見もいただきましたが、今回の取組みを土台に、次年度に向けて検討を重ねているところです。

モデル事業として様々な形態で実施した 4 事業所の生の声をお伝えします！

社協　若狭町社会福祉協議会（若狭町）

平日の２回シリーズ

８月　６日（月）10:00 ～ 15:30	科目／ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ
８月 20 日（月）10:00 ～ 15:30	科目／能力開発、気づきのための面談会

事業所から一言！

法人本部事務局次長　今　井　ひろみ氏

170 名の職員のうち介護保険事業に従事する職員は全体の 8 割を占めています。同じ社協にいながら日ごろの交流も限られる中で、経験の浅い様々な職種の職員が一堂に、社協職員としての基礎を学び、自己分析や行動の振り返り、意見交換をする機会を得られたことは大変有意義な研修だったと思います。社協組織の一員としての自覚と連携する大切さを感じた若い職員たちに乞うご期待！

受講者の声　～研修を受講してみて～

デイサービスセンターパレア若狭　介護職　齊　藤　裕　人氏

今回の研修で自分の課題や役割を考えていくうちに、近しい自分の目標が明らかになりました。また、若狭町社協の行動規範にも挙げられています「自己研鑽に努める」ということを再認識し、自分を磨くためにどんな努力や姿勢でいるべきなのかということが実感できました。更にこれは、自分１人で行うことではなく、先輩、後輩、仲間、いろんな人に囲まれて行うべきだし、行わなければならないと考えることができました。

デイサービスセンター五湖の郷　介護職　千　田　育　里氏

研修を受講してから、講義で学んだ、よりよいコミュニケーションを行うために必要なのは『聴き上手』であること、『ホウレンソウ』の重要性、問題解決に対して他責ではなく自責の念をもつことが大切であるなど、印象に残ったこれらを意識して日々の業務に取り組むようにしています。また、今回は普段なかなか関わることのできない他部署の職員さんとも様々な話し合いができ、良い経験となりました。

障害　あいの里・障がい者支援センターひまわり（越前市）

土曜と平日の２回シリーズ

10 月 27 日（土）　9:00 ～ 17:30	科目／ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、福祉ｻｰﾋﾞｽの実践、組織活動、気づきのための面談会
11 月　２日（金）11:00 ～ 14:00	科目／気づきのための面談会

事業所から一言！

主　任　岩　崎　美智子氏

今回の研修を受講し、初心に戻っての確認ができたことが何よりの収穫でした。研修内容に関しては、「講義の受講」というより「参加型の研修」といった趣旨が強く、グループワークや実践的な演習が各コマでふんだんに盛り込まれており、体感や実践を持って講義内容を理解できました。また、その点で研修受講意欲の盛り上がり・一体感につながったのではないかと思います。

講師の方々の様々な工夫や配慮のおかげで、参加者一同、今後の糧となるような貴重な研修を受講することができたことに、心より感謝いたしております。ありがとうございました。

受講者の声　～研修を受講してみて～

あいの里　生活支援員　蓮　浦　　新氏

今回の研修を受講し、利用者の方に対する接し方または支援の考え方や、仕事に対する姿勢について学ぶことができました。また研修の中では、言語だけで図形を作成するコミュニケーションゲームや非言語でペーパータワーを作成するコミュニケーションゲーム等、実際に体感することが多く、講義内容の理解を深めることができました。今回の研修で学んだことを活かして、今後の仕事に取り組んでいきます。

今回有意義な研修を受講することができ、講師の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

児童　仁愛保育園（福井市）

平日夜間の４回シリーズ

７月24日（火）17:00～19:00	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
８月　７日（火）17:00～19:00	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ
９月25日（火）17:00～19:00	職場の基本動作（接遇）
10月16日（火）17:00～19:00	気づきのための面談会

事業所から一言！

主任保育士　平　木　美紀子氏

組織の中で働くために一人ひとりが気をつけていかなければならないことを、テキストやパワーポイントを使って４回講義を受けました。ワークシートを使った作業後、自分の意見を出し合ううちに心が通い合い、多くの気づきを得ることができました。プラス思考になれたようにも思います。自園の職員のみだからこそ学べたこともありました。充実した研修の機会をいただきまして、本当にありがとうございました。

受講者の声　～研修を受講してみて～

保育士　斉　藤　恵理子氏

この研修を通して、じっくりと話し合い、意見を出し合う機会を持つことができ、自分自身にも少しずつ自信がついてきました。「やる気」や「気づき」を引き出すためには、まず自分から積極的に考えや思いを伝えること、そして行動を起こすことが大事だと感じました。自分のわからないことでも相手の考えを聞くことにより、納得し解決できることも改めて感じました。研修で学んだことをこれから保育に生かしていきたいです。

保育士　松　井　詩　織氏

普段、私達が受ける研修は、多くの人が集まって広い場所で講義を受けるものがほとんどですが、出前研修は保育士５人対講師の先生方と直接やりとりができ、距離だけでなく心も近くに感じられ、しっかりと心に学びが伝わりました。内容も基礎的な視点から自分を見つめるものばかりで、仕事に就いて数年経った今だからこそ見直せる部分が沢山ありました。ありがとうございました。

老人　ひかりケアホーム（福井市）

平日夜間の４回シリーズ

９月　７日（金）18:45～20:45	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
９月21日（金）18:45～20:45	ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ
10月　５日（金）18:45～20:45	職場の基本動作（接遇）
10月18日（木）13:30～16:00	気づきのための面談会

事業所から一言！

理学療法士　渡　辺　　竜氏

通常の県社協の研修は、業務の関連から受講できるのは多くて２名ですが、今回のように県社協の講師の方々が当施設まで足を運んでいただくことで多くの職員が受講することができるというのは非常に有り難い企画です。今後も機会があれば是非申込みたいと思います。また、他の施設様も受けることで福井全体の介護の質の向上を図ることができるのではないでしょうか。これからも“縁の下の力持ち”で宜しくお願いいたします。

受講者の声　～研修を受講してみて～

介護職　竹　内　志　織氏

楽しい研修でした。コミュニケーションでは人に伝える難しさが良く理解できました。接遇では、言葉遣いの難しさを改めて感じました。丁寧語、敬語、謙譲語の使い方がまだ十分には理解できていませんが、普段から意識して業務に当たり、日常的に使いこなせるようになりたいです。

介護職　瀧　本　志緒美氏

接遇の研修が特に強く印象に残っています。それは、私自身が全くできていない証拠であると感じています。接遇は、サービス業の基本であり、全てだと思います。そのため、今後の私自身の課題として日々精進していきます。

作業療法士　黒　木　康　晴氏

今回の研修では、接遇にのみ参加しました。接遇の研修というと厳しく指導されるものというイメージがあったのですが、分かりやすく、あっという間の２時間でした。実技では実際やってみて悟る内容もあり、新鮮な気持ちで参加させてもらいました。施設の接遇を良くして行く為には必要なものであると思いました。

キャリアアップのための異業種福祉実践研修 参加者の声

福井県社協では、福祉施設職員の資質向上と利用者へのより質の高い福祉サービスの確保を目的とする「異業種福祉実践研修」を、昨年度に引き続き今年度も実施しました。

本研修は、自らが所属する施設とは種別が異なる施設で、その対象や業務等を見聞し、実際に関わりを持つことで自らの業務や取り組み姿勢等を振り返り、幅広いものの見方・考え方等を深め、更なる成長を促す契機とすることを目指しています。

今年度は、高齢者福祉施設の介護職員や障害福祉サービス事業所の生活支援員など７名が本研修に参加し、自身のスキルアップに向けた目標を設定し、熱心に研修に取組みました。

一方で、研修受入施設からも、「障がいや老若の違いはあっても、福祉施設としての大きな目的は一緒であると再認識できた。」などの感想も寄せられ、本研修を通して研修者、受入施設の双方にメリットが生まれています。

介護老人福祉施設　五岳園

介護職員　西野有香さん

＜足羽東保育園にて研修＞

私の職業は介護職ですが、幼少期の夢が保育士でした。この研修の話を頂いた時、行きたい気持ちと他職種の経験がない不安がありましたが、初心に戻り新たな気持ちで研修に臨みました。研修は５日間でした。その期間で何が出来るのか？と考えた時、園児とはいえ人間関係を良くするには自分を受け入れて貰う事からだと思いました。そこでたくさん触れ合いコミュニケーションをとりました。すると、園児から話しかけてくれるようになりました。絵本を読んだり、絵を描く事もとても好きで一緒に行うと、たくさんの笑顔を見る事が出来ました。

また、喧嘩をした時には「謝ろう」と園児同士がやり取りをしている姿、「出した物はきちんと片付ける」と最後まで残り他の園児にも教えている姿、そしてその言葉をしっかり聞いている姿を見た時に素直さと成長に驚きました。最終日、今日で最後という事を伝えると別れ際に広告で飴を作ってきてくれた園児。とても嬉しかったです。

私はこの研修で人としての初心を見つめ直す事が出来たと同時に、園児達の素朴で素直な行動から私自身忘れかけていた大事なことを今一度考え直すきっかけにもなりました。そして、この経験を自施設の利用者間はもちろん職員同士でも活かし、施設全体のレベルアップに繋げていきたいと思います。

九頭竜ワークショップ
上野の郷

生活支援員　河合八重子さん

＜第三光が丘ハウスにて研修＞

私は障害者支援施設で生活支援員として勤務しています。身体障害者施設以外での介護経験がないため、今回、新たな分野での知識や介護サービスの支援内容を習得したいと思いこの研修に臨みました。研修先はユニット型介護老人福祉施設である光道園第三光が丘ハウスでした。

研修では、食事・入浴・排泄等の介助を見学、実践させていただきました。ユニットの定員は10名で、家庭的なこじんまりした環境の中で食事や団欒を行う共同生活の中で利用者の方の尊厳を保持し、個々の生活のリズムや習慣に沿った個別的なケアの提供を実施されていました。勤務する施設との違いを感じ、介護に対する新たな知識を得ることができました。

また、全国老人福祉施設協議会主催の介護力向上研修会に参加し、竹内式理論の基本ケアに基づいた取り組みが実践されている様子を聞かせていただきました。私たちの施設でも高齢化、重度化に対してのケアへの取り組みが重要な課題となっており、今後の対応策の参考になりました。

今回の研修では、情報交換も含め介護に対するあり方を見直す機会となり、業務や介護の取組みに対しても新たな見方、考え方を見出すことができました。自分自身のレベルアップに繋ぐためにも、今後の仕事に活かしていきたいと思います。

詳しくは、福祉サービス支援課（TEL 0776-24-2347）までお問合せください。

福祉施設経営相談室Q&A

Q 新入職員の定着をよくするためにはどうしたらよいか？（介護施設・事業所）

A 離職者の勤続年数を調べると、1年未満は40％、1～3年未満が30％と離職者の70％を占めている。1年未満は入職前のイメージと現実のギャップに起因するところが大きいようです。まずは1年未満の初期の離職を防ぐこと、さらに節目といわれる3年目を超せるような対策が必要です。

なぜ辞めてしまうのかという離職原因を踏まえて、離職防止の対策を講じることが必要です。介護業界では「仕事の割には賃金が低く、生計に不安がある。」という理由が離職の原因としてあげられますが、本当にそれが一番の原因なのでしょうか。

介護職員を選んだ理由として、「働きがいのある仕事」「資格・技能が生かせる」「人や社会の役に立ちたい」などで就労し、現在の仕事への満足度は「仕事の内容・やりがい」「職場の人間関係」「雇用の安定性」と答えている。悩みとして「賃金」「教育訓練・能力開発のあり方」「福利厚生」「労働条件」などがありますが、不満等の解消方法としては、「介護能力の向上に向けた研修」が最も多く、「介助しやすい施設づくりや福祉機器の導入」「働き方や仕事内容で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定」となっています。決して賃金だけが不満でない事が伺えます。

初期の教育の仕組みとして、先輩職員と新入職員のマンツーマンの教育が改めて注目されています。「チューター制度」等呼称は様々ですが、先輩職員がマンツーマンのOJTにより、業務スキルの習得を現場でより実践的に行うことと、身近な先輩職員が職場生活上の不安や悩みなどのメンタルケアを行うと言う事を趣旨にしています。教える立場の先輩職員にとっても「学び」の機会となり、自分自身の業務スキルを再確認することにもなります。チューターとは2～3年目の職員が担当することになっており、同期や上司とは違う〝少し上の先輩〟との関係が気持ちの支えになったりすることが定着に繋がっていくと思われます。

NHK歳末たすけあい

福井県のたすけあい活動は、皆様の寄付により支えられています。昨年度NHK歳末たすけあいで支援した団体からいただいた感謝のメッセージを報告をさせていただきます。

福井に避難された方々に温かいお正月を

東日本大震災で福井県に避難された方は現在でも３００名以上にのぼります。NHK歳末たすけあい義援金で、被災者の方へ年越しのおもちやみかん、水ようかんなどをダンボールに詰めて来年のカレンダーと一緒に県内各家庭を訪問させていただきました。

みなさんに、一軒一軒の手渡しをしたので少しの時間しかとれませんでしたが、いろいろな悩みや現状を聞く機会ができました。大変喜ばれていました。

（ひとりじゃないよプロジェクト・福井）

重度肢体障がい者の入浴備品に活用させていただきました。

重度（肢体不自由）の方も安心して入浴できるようにベッドを置くことでスムーズに介護できるようになりました。また、入浴用のＵ字チェアーや椅子なども整備し、一人ひとりが椅子に座って着脱することで生活訓練にもつなげることができています。入浴は皆さん楽しみにされており、今か今かと順番を待つ利用者の姿にこの備品をいただいて本当に良かったと感じています。NHK歳末のご支援に感謝しています。

（自立支援センターはあとスマイル春江）

いつまでも、懐かしいふるさとは忘れられない。

毎年、福井県出身の療養所の方々には、特産品と水仙をお送りしています。

（ハンセン病療養所邑久光明園県人会からのお手紙です）

ふるさとを離れ６０～７０年の歳月を迎えたものばかり。会員も高齢でずいぶん少なくなりました。

いつまでもふるさとの出来事は忘れられない事ばかりです。

一日遅れの福井新聞も一面ではなく、ローカル版から最初に目を通し、みんなで語りあっている日々です。本当に毎年、福井のみなさんから温かい贈り物を送ってくださることは、私達に日々の療養に励ましを与えてくださいます。

被災地応援・交流活動報告（陸前高田市）

去る11月11日～13日、岩手県陸前高田市へ県市町社会福祉協議会会長会の事業として、陸前高田市の経済復興の一助とする目的でバスツアーを実施し、県内より役職員17名が参加しました。

東日本大震災から1年8か月が経過していますが、震災の爪跡は今もまだ多く残されていました。瓦礫が片付き、視界を遮るものがなくなった分だけ、喪失感や虚無感がいっそう強く感じるような気がしました。見慣れた風景が津波によって一変してしまった、そのことが陸前高田市民の心に残した爪痕が、まだまだ深いことを再認識させられました。

一方で、人々の暮らしには、活気が戻ってきたという印象も受けました。新たなメインストリートには、仮設の店舗や飲食店やカフェ、居酒屋も並び、被災直後の「険しさ」や「疲労感」が伺えた表情も幾分和らぎ、表情豊かな市民の顔が垣間見られた気がしました。

1年8カ月という期間が長いか短いかの議論はさておき、復興への歩みを考えると被災地には日本全国からの息の長い支援がまだまだ必要です。

永平寺町社会福祉協議会
会長　永善　信行さん

永平寺町社協では延べ15名の職員が交代で復旧支援に参加、昨年の7月には町内のボランティア有志35名が2泊3日で曹洞宗龍泉寺境内の泥出し作業に参加しました。

今回、再び訪問した陸前高田市は広大な空き野原に一変していました。

災害ボランティアセンター

曹洞宗海岸山普門寺

普門寺ご住職は「今回生き残られた人が幸福になられることが亡くなられた人達への最大の供養です」と言われましたが、息子さん夫婦、お孫さん全員が亡くなられたお年寄りの「みんなの後を早く追いたい・・」という本音に胸が詰まりました。

私も高齢です。この先若い人たちが人的、物的支援とともに文化交流を深め、陸前高田と福井が末永くお付き合いできることを心から望みます。

坂井市社会福祉協議会
副会長　吉田　昭宣さん

陸前高田市で目の当たりにしたのは、自然の底知れぬ破壊力と自然への畏怖でした。

しかしまた、深い悲しみにも負けず、被災された方々が力を合わせて復興を目指している様子も伺うことができました。

訪問の目的は復興へのささやかな応援と現地の社会福祉協議会を訪問して、現状把握と社協が何をなすべきかを少しでも理解することでした。

そこで感じたことは、復興への道のりは厳しく、今後も継続してできる限りの支援をしていくことがまだまだ必要だと言うことでした。

越前町社会福祉協議会
事務局次長　水嶋　康善さん

約1年半ぶりに行った陸前高田市の風景は、あまり変わっていませんでした。

これから先、まちの姿が変わっても、津波被害の風景は地元の人々の心から忘れ去られることはないだろうし、いつまでも忘れず語り継いでいってほしいと願っています。一方で海から昇る朝日はとってもきれいでした。いつか必ず復興した陸前高田のまちをまた訪れてみたいと思いました。

あわら市社会福祉協議会
地域福祉係長　達川陽子さん

今回、経済復興応援ツアーに参加し、実際に被災地に足を踏み入れて、その状態を肌で感じる事ができました。経済効果の範囲は限定されていたかもしれませんが、一定の貢献はあったと思っています。また、地元

陸前高田市ふれあいセンター（旧社協）

の人たちは福井から来たと言うと、「福井の方には本当にお世話になっております。」と言われます。これは震災当初からすぐ支援活動にあたられた皆さんの実績の賜物だと思っています。

復興は、業種や地域によって異なる部分もあるかと思いますが、少しずつ前に進んでいるようにも感じました。個人的には一度も現地に行けなかったことをずっと心苦しく思っていたのですが、陸前高田市社協の及川事務局長の「ボランティアでなくても、陸前高田へ来て欲しい。そして買い物や観光をたくさんしていって欲しい。」との言葉で気持ちが少し楽になりました。

スコップを担いで瓦礫を撤去する事はできないけれど、いつも被災地に心を配り、その復興を願う気持ちを持ち続けたいと思っています。ショッピング中に東北地方の商品を見かけたら買い物かごにそっとしのばせます。

池田町社会福祉協議会　廣田　和美さん

私自身、1年半ぶりの陸前高田市で、市街地や災害ボランティアセンター、社協などを訪問させて頂き、少しずつ前に進んでいる市民の皆さんの様子から、人間の持つ力強さを感じました。同時に、『被災地支援で何が出来たのだろう』と考え直すきっかけにもなりました。答えはまだ見つかりませんが、長く続く復興への道のりを一緒に応援していきたいと思いました。

陸前高田市社会福祉協議会事務所前

チームふくい現地事務局　後藤　勇一さん

陸前高田市に来て1年8カ月になります。今まで経験したことが無い沢山の活動を経験することができました。個人としては地元の方と一緒に考え、一緒に行動してきたつもりです。しかし、私の存在が役に立っているのかと今でも自問しています。復興はまだまだです。何に貢献できるのか、悩みながらもうしばらく活動していきたいと思っています。光はまだ見えてきません。福井県内社協の皆様のご支援よろしくお願いします。

福祉車両（積善会号）寄贈事業について（募集）

本県の社会福祉の増進に寄与することを目的に、財団法人積善会から県内社会福祉関係機関・団体等へ福祉車両（計 4 台）を寄贈する事業を実施いたします。詳しくは、福井県社会福祉協議会ホームページ（http://www.f-shakyo.or.jp/）をご覧ください。

申込期限　12月20日（木）

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

１１月８日
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 様（福井市）
車いす　２台
寄贈先　福井県社会福祉協議会（福井市）

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

希望の灯り

未来に笑顔（スマイル）

Profile

姉：竹内　瑞貴 さん（写真左）
ケアワーカー　3年8ヵ月

妹：竹内　志織 さん（写真右）
ケアワーカー　8ヵ月

（医）雄久会
介護老人保健施設　ひかりケアホーム

このコーナーでは、「笑顔（スマイル）」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

それぞれのきっかけ

「小さな頃からおじいちゃん、おばあちゃんが大好きでした」という姉の瑞貴さん。中学時代の職場体験（デイケア）では、利用者の方に「ありがとう」と言われたことが嬉しく、このことをきっかけに高校は福祉科を選択。卒業時に介護福祉士を取得しました。

一方、「日ごろから姉と母（福祉関係職）の仕事の話を聞き、高校卒業後の進路として介護職を目指すようになった」という妹の志織さん。いきいきとした姉の姿を見て、姉と同じ職場を選んだのは自然な流れでした。

やりがいは日常の中に

日ごろのちょっとしたやりとりで利用者の方との関係が深まっていきます。今まで「誰だっけ」と言っていた方に顔を覚えられたり、自分の働きかけで寝たきりの方の表情に笑顔が見えたときは「やった！」と嬉しくなります。

また、みんなの前でズッコケたり、日付や曜日を間違えて利用者の方に「新聞見てみ」とツッコまれたりするのも、みんなを笑顔にするために役立っている（？）と前向きに考えるようにしています。

反面、「利用者の死に直面すること」が、やはり何よりもつらいことです。

利用者との関係性を大事にしたいのでそれまでの人生に思いを馳せるようにしています。

今の目標

先輩たちの仕事ぶりには見習うことが多いです。また、さまざまな職種の見方や考え方を学べるケア会議や、利用者一人ひとりをしっかりと見つめて組み立てるケアプランの作成では、プロとしての責任も感じます。このような機会を通じて自己研鑽するとともに、その上で「施設内のみんなに慕われるアイドルになりたいです」（姉）、「私は実務経験を積んで介護福祉士を取得したいと思っています」（妹）

姉妹が同じ職場で働くことについて

「姉は家では適当だけど職場ではしっかりしており学ぶところが多い」、「まさか妹が介護職になるとは思わなかったけど、働く姿を見ると結構さまになっている」とのこと。そして、二人とも「前より仲良くなった」「家で自然と仕事の話・相談ができる」とお互いに頼もしさを感じているようでした。

笑顔の素

笑顔の素

利用者が楽しそうにしている姿を見ること、ちょっとした声かけでニコニコしてもらえること・・これが私たちの毎日の元気の素です。

取材を終えて

一見したところ雰囲気が違うお二人でしたが、お互いに認め合い、家でも職場でも仲良くしている様子にうらやましさを感じます。お二人の笑顔は、施設の皆さん（利用者・同僚）の元気の素になっているようです。

●発行　平成24年12月1日　社会福祉法人福井県社会福祉協議会　〒910-8516　福井市光陽2丁目3-22
TEL（0776）24-2339　URL　http://www.f-shakyo.or.jp/
（1部　35円：購読料は会費に含まれます）